

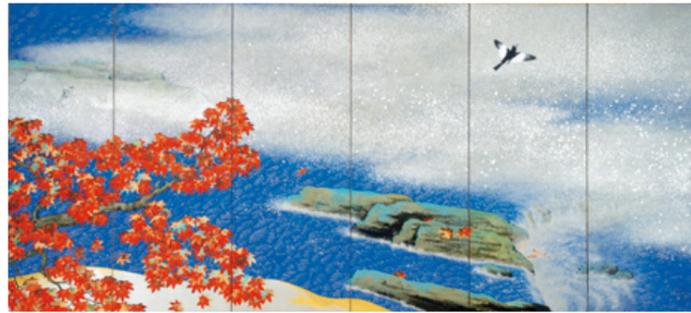
足立美術館
島根県

世界が認めた日本庭園と 近代日本画の名品にふれる

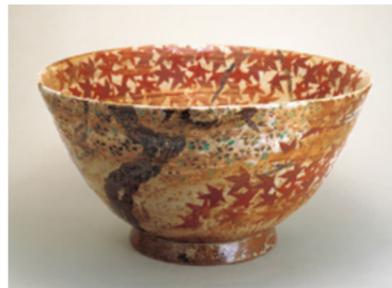
美しい日本庭園と、近代日本画の名コレクションで知られる足立美術館。50年間変わらぬ努力と、未来に向けた新しい変化に注目してみましょ。



日々刻々と変化する庭園を大きな窓から絵画に見立てて鑑賞できる、「生の額絵」。



横山大観《紅葉》(1931年)
毎年、秋季限定で公開される横山大観、円熟期の屏風絵。紅葉の赤と流水の群青、さざなみの白金泥が秋の清冽な自然を描き出す。8月31日～11月30日開催の「秋の横山大観コレクション」で展示予定。



北大路魯山人《雲錦鉢》(1941年頃)
直径40cmを超える本作品は、紅葉した楓と満開の桜が大胆にあしらわれている。



上段／背後の山を借景とすることで奥行きを感じさせる「枯山水庭」。下段／周囲の景観へおだやかに溶け込む美術館の建物。



横山大観《乾坤輝く》(1940年)
大観の画業50年を記念して発表された、霊峰富士をテーマにしたシリーズの一枚。8月30日まで開催の「夏季特別展」で展示。

新設の展示室で 魯山人の名品と出会う

同館は「大観美術館」とも呼ばれるほど、質量ともに日本有数の横山大観コレクションを所蔵しています。中でも大観円熟期の傑作と評される『紅葉』は、名古屋の美術展で初めて目にした全康氏が、言葉が出ないほど感銘を受け、「何が何でも手に入りたい」と八方手を尽くして入手したという逸品。

日本の秋を装飾性豊かに描いた屏風絵には、毎年この作品を観るために来館するファンも多いのだとか。

他にも竹内栖鳳や上村松園など、近代日本画壇の巨匠たちの名品や、現代日本画、陶芸、童画、木彫など多彩なコレクションを誇る同館。

稀代の芸術家北大路魯山人の作品については、全康氏の孫である現館長の足立隆則氏が熱心に収集を進め、現在約500点を所蔵しています。2020年には、同館の開館50周年を記念して展示室「魯山人館」を新設。蔵をイメージした落ち着いた空間で、陶芸の他、篆刻や書など貴重な作品の数々を鑑賞する楽しみが加わりました。

自然の美、芸術の美をじっくりと味わう一日を、足立美術館で過ごしてみたいかがでしょうか。

「庭園も一幅の絵画」 その信念が今も息づく

島根県安来市にある足立美術館は、「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で最高評価三つ星として掲載された美しい日本庭園で知られます。

創設者は地元出身の実業家、足立全康氏。横山大観を始めとする近現代の日本画を深く愛した氏は、日本庭園を通じて四季の自然の美に触れてもらうことで、日本画の魅力がより多くの人に伝わるのではと考えました。

総敷地面積約16.5万㎡。大観の作品をイメージした「白砂青松庭」、京風の雅な「苔庭」など個性豊かな庭園が建物を囲みます。館内には刻々と変化する庭の景色を絵画のように鑑賞できる「生の額絵」「生の掛軸」といった楽しい仕掛けも用意されています。

「庭園もまた一幅の絵画である」という信念のもと、氏は91歳で亡くなるまで庭造りに情熱を注ぎました。その庭園を変わらぬ姿で伝えるため、現在も職員総出で毎朝1時間かけて園内を清掃し、庭木の枝ぶりが周囲と合わなくなったら交換できるように、赤松のスペア約400本を用意。夏季には、専属の庭師が赤松を巧みに剪定する作業風景を見られることも。

お楽しみ周辺SPOT

安来の「ウユニ塩湖」と 松江カツライス

安来市の「飯梨川河口」は約30mにわたり砂が堆積し、無風で空気が澄んだときには、水面が鏡のように変化。ポリビアの「ウユニ塩湖」さながらです。近隣の松江市には「松江カツライス」というご当地グルメも。カツにコク深いデミグラスソースをかけた一品で、レトロな味わいが魅力です。



飯梨川河口(安来のウユニ塩湖)

安来市観光協会 TEL.0854-23-7667(飯梨川河口)
松江観光協会 TEL.0852-27-5843(松江カツライス)

お泊まりは
「公立共済やすらぎの宿」
を、ぜひご利用ください

お近くには「サンラボーむらくも」
がございます。詳しくは「やすらぎ
の宿」HPをご覧ください。



<https://www.kourituyasuragi.jp/>

足立美術館

住所 島根県安来市古川町320
電話 0854-28-7111
料金 大人2,300円
開館 9:00～17:30(4月～9月)、9:00～17:00(10月～3月) 無休
(新館のみ展示替えのため休館日あり)
交通 JR安来駅より無料シャトルバスで約20分
HP <https://www.adachi-museum.or.jp/>